

1. 本園の教育目標

「心豊かな たくましい 子どもを 育てよう」⇒ふかえっ子の育成

<p>教育理念</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ 「おはようございます」 ・おもいやり「どうしたの」 ・かんしゃ 「ありがとうございます」 	<p>ふかえっ子の姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・元気でのびのび明るい子 ・集団の中で自分を生かせる子 ・よく聞き よく話し よく考え 最後までやりぬく子 ・よく遊び創造する子
--	--

2. 評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	結果・取組状況	今後の課題
教育目標 教育方針と 基本的生活習慣	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなができるようになるよう意識して指導する。また地域の方とも挨拶できるような言葉がけを心がける ・園や公共のものの大切さを意識できるようにする。 ・自分で身だしなみにきづけるようにする。また友達同士で声を掛け合い気付けるよう促す。 ・教育目標にある「ふかえっ子」の姿を職員が意識してつねに日々の保育の見直しを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者が手本となり挨拶を促していた。子どもが自ら挨拶できるように引き続き促していく。 ・身だしなみを整えられるよう声を掛けると、子ども同士でも意識してできるようになってきた。 ・保育室に鏡を設置し自身で身だしなみを整えるようにした。 ・玩具扱いや片付けに課題が多い。園のものを大切にできるよう、また基本的なことができるよう伝えていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶の意味を考えながら自ら積極的に挨拶ができるようにする。また、職員自身、職員同士も普段から挨拶を大切にする。 ・クラスだより等で積極的に教育目標、ふかえっ子の姿を感じられるような場や状況、保育の様子を伝えていく。また、職員がふかえっ子の姿を意識して保育をすることや子ども一人ひとりの遊びをとらえ関わる。 ・各保育室に鏡を置き自分で身だしなみや食後の口周りなど確認できるようにする。友達同士で声を掛けられるよう意識付けをしていく。 ・基本的なことが最後までできているか保育者が気付き伝えていく。
特別支援	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き専門家と連携し特別支援教育の理解を促していく。 ・日々の様子を記録し成長過程を記録していく。 ・毎日の振り返りを大切に保育を進める。支援児も含めた関係の中でクラス作りをしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども同士積極的に声をかけたり助け合えるクラス、思いやりのあるクラス作りを心がけた。 ・サポートブック、個別のできたねノート、写真やカードを使用し担任と加配が共通理解をもって支援していくことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続きサポートブックなどで共有していく。また専門家の助言の下で、また関わる職員間での共有と、学年や全体への情報交換の方法を考える。 ・引き続き支援児も含めた関係の中でクラス作りをしていく。
食育	<ul style="list-style-type: none"> ・食物栄養や食による体の働きを知るプログラムをカリキュラムに位置づける。 ・絵本や写真などの教材を工夫し食に対する興味をもてるようにする。 ・栄養士と一緒に給食をとる機会を継続する ・食材標示を置く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・さいえんの利用頻度にばらつきがあったが、栽培物の生長過程を知り食に興味を持てるようにした。 ・さつまいもの植え付けから焼き芋大会につながる活動に意欲的に取り組んだ。 ・コロナ禍の為栄養士との昼食の時間の確保がむづかかった。 ・子どもたちと献立表を確認し三食栄養のパネルの活用により材料や食材に興味を持てるようになった。 ・クッキングは動画による体験で代替えた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・さいえんをより積極的活用できるように計画する。 ・より多様な媒体を使用して栽培物の生長過程、調理過程を知る。 ・栄養士と一緒に給食をとる機会は食べ物に関わる人達に気づき、社会への感謝の気持ちを育む。 ・パネルを活用し三色栄養の理解を深め子ども同士で話し合いができるようにする。 ・姿勢や箸の持ち方など基本的習慣を見直す。 ・家庭でも食育に関し親子の関わりがもてるような発信をしていく。
安全管理体制 避難訓練など	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練を行うと共に、玩具の置き場所や園内の危険箇所を見直し確認する。 ・紙芝居等で子どもが理解できるようにする。 ・不審者対応など状況に応じて臨機応変に状況を判断し行動できるようにする。そのため予告無しの訓練を行う。 ・園庭チェック表を継続。 ・避難訓練の際は、災害によって対応が違うことを伝え子ども達が理解できるように話をした。また避難経路を見直し職員同士把握する。 ・救急 AED 研修を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練を行うと共に、玩具の置き場所や園内の危険箇所を見直し確認することができた。 ・紙芝居等で子どもが理解できるようにした。 ・不審者対応など予告せぬ訓練を行い、状況に応じた行動を確認しあうことができた。 ・園庭チェック表で毎朝危険物、遊具の破損などがないか確認した。 ・避難訓練の際は、災害によって対応が違うことを子ども達自身も理解できるよう伝えることができた ・救急 AED 研修を受け職員の意識を高めた。 ・予告無しの訓練を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練を継続し、室内備品の置き場所や園内の危険箇所を見直し常に確認する。 ・紙芝居等の利用を続ける。 ・不審者対応など、予告無しの訓練を行うことで職員や子どもが臨機応変に状況を判断し行動できるようにする。 ・園庭チェック表で毎朝の危険物、遊具の破損など確認する。 ・避難訓練の際は、災害により異なる危険性を伝え子どもたち自身も理解できるようにする。また、避難経路を見直し、職員同士把握する。 ・救急 AED 研修を継続する。
室内 園庭環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ツリーデッキをより活用する。 ・様々な素材を遊びに取り入れる。 ・子どものあそびの幅を広げるよう関わる。 ・こどもの成長やあそびの広がりに合わせて、玩具や備品等の室内環境や保育内容を学年で考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ツリーデッキのより積極的に活用することで、難しいことも自ら挑戦する楽しさを味わうことができた。 ・コマやけん玉、リズム遊び等日々の取り組みを充実させ、職員も子どもと一緒に楽しみながら活動することができた。 ・廃材あそびを多く取り入れ、創造力が広がった。 ・絵本棚の環境を整え、季節や興味にあった絵本を手に取りやすいよう設定した。 ・図鑑を活用し、生き物や植物に興味を持てるようにした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝の戸外あそびで体を活発に動かし元気な身体を培う。 ・こどもが意欲的にあそびを発展していけるような環境を準備する。また、成長や発達に合わせたあそびが行事へつながっていけるように意識する。 ・絵本のほかペープサートやエプロンシアターなども保育に積極的に取り入れていく。 ・図書コーナーのほか「えほんかん」を活用しより絵本に親しみをもつ。

園庭開放	<ul style="list-style-type: none"> ・ 約束や利用時間など標示し、保護にも意識してもらう。 ・ 掃除を徹底し安全できれいな園で遊んでもらえるよう整える。 ・ 親子や、子ども同士の触れ合いの場となっている意識を持つ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 土曜日の園庭開放を継続し、人数制限等感染対策のもとで安全に安心して利用できるよう配慮した。 ・ 挨拶や会話等親しみやすい雰囲気になるよう心がけた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 安全できれいな園で遊んでもらえるよう整える。 ・ 親子や子ども同士の触れ合いの場となっている意識を持つ。 ・ 園に親しみやすい雰囲気を作り、より活動的に遊んでもらえるよう玩具を用意する。
教職員のチームワーク連携	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修報告を行い、研修資料をファイルで共有する。 ・ クラスのことを伝える等職員の話し合いの場を作り保育に生かす。 ・ 職員人数が増えている中、伝達事項の共有を確実にを行う。 ・ 預かり保育を含めた長時間保育児の1日の姿の情報共有について。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ コロナ禍の中研修への参加がむづかしかった。 ・ 終礼ノートで職員全体で把握し共通理解できるようにした。また、けがやトラブルだけではなくクラスの様子を伝えあう時間を設けた。 ・ 保育中に起こったことを担任、副担任で共通理解した上で保護者に伝え、安心してもらえるようにした。 ・ 預かり保育では引継ぎを丁寧に情報を共有した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修報告を続け、研修資料をファイルで共有する。 ・ より連携を図るため職員が集まり話し合いの場、クラスのことを伝える場を作り日々の保育に活かしていく。 ・ 長時間保育児の姿を共有し保護者と連携するについて副担任を交えながら子どもの姿を情報共有していく。また、預かりに関わらず保育に入る先生と丁寧に事前打ち合わせを行う。 ・ 担任と預かり保育担当職員と連携を強めお互いの立場の共有を行う。
健康保健衛生	<ul style="list-style-type: none"> ・ 感染症に関する情報を保護者に伝えながら家庭の協力を促す。 ・ 園舎内の清掃、消毒を行い、備品の設置とメンテを行い衛生管理を徹底する。 ・ 手洗い、うがいの徹底、歯ブラシ指導など基本的なことを子ども自身が意識してできるように基本から見直す。 ・ 持ち物検査を実施し、子ども、保護者の意識を促す。 ・ 玩具の定期的な点検（危険なものは取り除く等） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ コロナ対策の為、子どもが手に触れるところや使った玩具等の消毒を毎日行った。 ・ 持ち物検査を行い、身だしなみを整える意識を持つとともにものを大切にすることも伝えた。 ・ コロナ感染防止の為、常時換気、手洗いうがい消毒を徹底した。 ・ ペーパータオルを設置し衛生面での徹底を行った。 ・ 食事中はパーテーションを設置し静かによく噛んで食べることで予防に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 引き続きコロナ対策として、ペーパータオルとハンカチを併用して使用する。使い方や適所をしっかりと伝え、子どもが考えて使用できるようにしていくとともに職員も意識する。 ・ 持ち物検査を続け、家庭に返していく。また、子ども自身も自分でできることは自分でする。 ・ 引き続き必要箇所の消毒を行う。 ・ マスク着用を伝え、気温等に合わせて外すなど自ら調節できるようにする。また管理の仕方等も伝えていく。
地域	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公園であそび、地域散策など地域の方とふれあい、自分の園の周りに何があるのか知る。 ・ 幼稚園と関わりのあるお店などに立ち寄り感謝の気持ちがもてるようにする。 ・ より地域を知り楽しく関わりを感じることができる活動を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ コロナ禍で地域へ出かける機会がなく。また行事への地域の参加もなかった。 ・ 年度末に地域対象の公開保育を行い、地域の方に子ども達の育ちと園の様子を知ってもらえる機会を作った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公園あそび、地域散策など地域の方とふれあい、自分の園の周りに何があるのか知る。 ・ 深江の伝統菅笠を見に行ったり、写真を準備し、住んでいる地域に関心が持てるようにする。 ・ 幼稚園と関わりのあるお店などに立ち寄り感謝の気持ちがもてるようにする。
保護者対応 家庭連絡	<ul style="list-style-type: none"> ・ 担任、副担任の共通理解を促進。 ・ ブログに普段の保育の様子をあげる頻度を高め保護者に知らせる。 ・ 普段直接話せない保護者には電話連絡等で子どもの様子を伝える。 ・ 家庭と連携して同じ考えで子どもを見守ることができるよう信頼関係を作る。 ・ 職員の共通理解を深め、保護者に間違った情報がいかないように統一し伝えられるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 担任、副担任と共通理解し保護者対応を行った。 ・ 送迎コースがない分、保護者と直接話せる機会が増え連携を深められたこともあり、家庭と園の様子の共通理解がしやすかった。 ・ クラスだよりやブログで園の様子を知ってもらい安心して預けてもらえるよう努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 担任、副担任と共通理解を持ち対応する。 ・ ブログやクラスだよりで活動内容だけではなく子ども興味をもっているあそびやともだちとの関わり等も伝えていけるよう工夫する。 ・ 送迎コースが開始しても偏りがでないように保護者対応をしていく。 ・ 家庭と連携して同じ考えで子どもを見守ることができるよう信頼関係を作る。 ・ 職員の共通理解を深め、保護者に間違った情報がいかないように統一し伝えられるようにする。

3. 学校評価の具体的な計画の総合的な評価結果

令和3年度の事業は、前年度から定着を図った新生活様式による園生活により、安定した保育活動を継続することができた。ただし、夏の第5波や三学期の第6波は子どもへの感染が広がり対応に追われた。特に乳幼児はマスクの着用が困難なため登園自粛要請が重なり保護者へ大変な迷惑をおかけした。結果的にはウイルスに翻弄されながらも一年を通じてそれなりに安定した保育を行うことができた。昨年度中止となった年少組の親子遠足、今年は年中組も参加し取り返すなど行事も予定どおり行ることができた。なにより「さいえん」を活用した食育を軌道にのせることもできた。特にサツマイモの植え付けから収穫、焼き芋大会とつながる一連の体験は子ども達の保育活動への意欲や広範囲の興味関心につながった。また植え付け準備のための畝作りは職員が担当し保護者の協力も得ながら進めることで子どもと同様に意味のある活動となった。

4. 学校関係者評価

卒園児や保護者など地域の有志による関係者評価委員会を運営。地域からの園児の見守りの他、行事の見学や園児との交流会に参加して頂いて評価の根拠としている。開催予定時期がコロナ禍第6波に重なりやむえず中止した。

5. 財務状況

公認会計士監査により、適正に運営されている。